

食育クイズ

日本の耕地面積は423万9,000ha(R7年7月時点)です。さて、これは東京ドーム何個分に当たるでしょう？
(答えは下部に記載)

Vol.13

発行：長井市農林課

「ながい食育通信」では、市内で『食』に関するさまざまな活動に取り組まれている皆さんの食育活動情報をご紹介します。

長井市と東洋ライス株式会社が 包括連携に関する協定を締結しました！

長井市と東洋ライス株式会社は、長井市産のお米を活用し、市民の健康づくり増進や持続可能な農業の振興、さらには、災害時における応援体制の構築等の推進により、持続可能で活力ある地域社会の形成を目指すべく、包括連携協定を締結しました。

東洋ライス株式会社は、お米のおいしさや栄養を生かした商品づくりに取り組んでいる企業です。今回の協定をきっかけに、お米や食に関する分野だけでなく、さまざまな分野で連携を図っていきます。



知っていますか？

『金芽米』と『米の精』

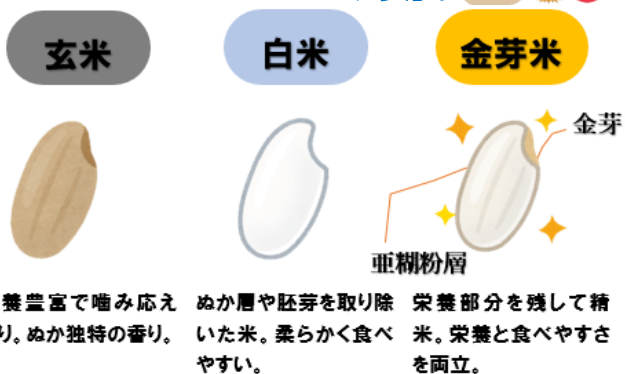
—東洋ライスのお米に関する技術—

『金芽米』は「コシヒカリ」「あきたこまち」といった銘柄や品種ではなく、東洋ライス独自の精米技術(BG 無洗米製法)によって、少しずつ表面のぬかを取りつつも、栄養とうまみ成分が含まれる亜糊粉層と、お米の金芽(胚芽の基底部分)を残した無洗米です。胚芽の基底部分が金色に見えることから『金芽米』と命名されました。

『米の精』は金芽米を無洗米加工するときに取り除かれた肌ぬか(とぎ汁の元)を製品化したもので、100%米由来の有機質土壌改良剤です。優れた成分バランスを保有しており、土中の微生物の働きを活性化させることで土壌が肥沃化し、良質な味の作物が育ちます。また、有機肥料として稲や野菜に使用されるほか、家畜の肥料としても利用されており、持続可能な循環型農業にもつながります。

玄米・白米・金芽米

のちがい



これから様々な分野で連携

—協定における連携事項—

今回の協定では、健康増進・食育をはじめ、農業振興、防災、情報発信、地域活性化など、幅広い分野で連携していくこととしています。それぞれが持つ知識や技術、資源などを生かしなが、長井市のより良い地域づくりにつながる取組を目指していきます。今後の取組にぜひご注目ください。